

北九州市立八幡病院 小児総合医療センター

Children's Medical Center, Kitakyushu city YAHATA Hospital

小児科専門研修プログラム 2019



総合診療科と4つのセンターを核に小児専門医療を充実 平成30年12月開院

- 小児**傷害・安全予防**センター
- 小児**救急・集中治療**センター
- 小児**血液腫瘍・細胞移植**センター
- 小児**神経・てんかん**センター

ERの整備とPICUの新設で重症管理部門を強化

- 小児病棟 **88**床（含む 無菌室病棟 **10**床） PICU **8**床
- 小児 ER 診察室 8室 ER 病床 10床 小児処置室 2床

急性期リハの充実と医療的ケア児の受入体制強化

- 急性期からのリハビリテーションの実施
- 医療的ケア児**の専用病床の確保
- 市立総合療育センターとの連携強化

Children's Medical Center, Kitakyushu city YAHATA Hospital
北九州市立八幡病院 小児総合医療センター



院長 市川 光太郎

当院小児科では、4つのプランチ（小児傷害・安全予防センター、小児救急・集中治療センター、小児血液腫瘍・細胞移植センター、小児神経・てんかんセンター）を中心に、小児総合医療を実践して臓器診療ではなく、一人間として患児・保護者の意思・精神を尊重した「協働で行う医療」を行います。純医学・社会医学を考慮した小児総合医療の実践は小児医療の素晴らしさ・大切さ・醍醐味を味わえます。是非、子どもと保護者のユートピアを一緒に作りましょう！

小児総合医療センター

総合診療部を中心に4つの小児専門医療を充実

小児総合診療部 + 小児傷害・安全予防センター
小児救急・集中治療センター
小児血液腫瘍・細胞移植センター
小児神経・てんかんセンター

ERの整備とPICUの新設で重症管理部門を強化

ER 初療室 2床・診察室 6床
PICU 8床

急性期リハの充実と医療的ケア児の受入を強化

急性期からのリハビリテーションの実施
市立総合療育センターとの連携
医療的ケア児の専用病床の確保

アクセス



充実の小児科専攻医プログラム

特徴

小児総合診療・小児救急は、地域のインフラとして組み込まれつつあります。それを支える「柱」として活躍できる能力と人間性を育成します。Common diseaseから重症患者、内因性疾患から外因性疾患まで、幅広い研修を通して視野の広いバランスのとれた小児専門医を目指しましょう。

豊富な経験症例

年間入院数
4,500名

丁寧な診察
正確な診断
最適な治療
リサーチマインド
後輩の教育

盛んな研究活動

学会発表
年60演題以上

小児救急病院の責務

全国初の小児早期警告システム(PEWS)の導入

お問合せ・ご相談

▶ TEL 093-662-6565(代表) 担当: 神園
▶ Email kjnpedia@mac.com

Children's Medical Center, Kitakyushu city YAHATA Hospital
北九州市立八幡病院 小児総合医療センター

北九州市立八幡病院
小児総合医療センター

小児科 専攻医 2019年度募集

**説明会
開催**

場所 北九州市立八幡病院 大会議室

日時

- 第1回 6/15(金) 16:00～19:30
- 第2回 7/20(金) 16:00～19:30
- 第3回 8/10(金) 16:00～19:30
(“夏祭り”同時開催)

院外説明会 7/14(土)・15(日) AIM(小倉)
(「第13回小児救急医療ワークショップ in 北九州」内)

 CITY OF KITAKYUSHU
北九州市

Children's Medical Center, Kitakyushu city YAHATA Hospital
北九州市立八幡病院 小児総合医療センター

目次

1. 北九州市立八幡病院小児科専門研修プログラムの概要
2. 小児科専門研修はどのようにおこなわれるのか
3. 専攻医の到達目標
 - 3-1 修得すべき知識・技能・態度など
 - 3-2 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
 - 3-3 学問的姿勢
 - 3-4 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性
4. 施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方
 - 4-1 年次毎の研修計画
 - 4-2 研修施設群と研修プログラム
 - 4-3 地域医療について
5. 専門研修の評価
6. 修了判定
7. 専門研修管理委員会
 - 7-1 専門研修管理委員会の業務
 - 7-2 専攻医の就業環境
 - 7-3 専門研修プログラムの改善
 - 7-4 専攻医の採用と修了
 - 7-5 小児科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
 - 7-6 研修に対するサイトビジット（訪問調査）
8. 専門研修実績記録システム、マニュアル等
9. 専門研修指導医
10. Subspecialty 領域との連続性
11. 当施設での実際の研修内容と流れ
12. 指導者研修計画と実施記録

北九州市立八幡小児科専門研修プログラム

1. 北九州市立八幡病院小児科専門研修プログラムの概要

[整備基準：1, 2, 3, 30]

小児科医は成長、発達過程にある小児の診療のため、正常小児の成長・発達に関する知識が不可欠で、新生児期から思春期まで幅広い知識と、発達段階によって疾患内容が異なるという知識が必要です。さらに小児科医は general physician としての能力が求められ、そのために、小児科医として必須の疾患をまれなく経験し、疾患の知識とチーム医療・問題対応能力・安全管理能力を獲得し、家族への説明と同意を得る技能を身につける必要があります。

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修します。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて3年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることを目指してください。

専門研修1年目は北九州市立八幡病院一般病棟・一般外来・救急外来で感染性疾患・内分泌代謝疾患・血液腫瘍疾患・アレルギー疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・腎泌尿器疾患・循環器疾患・神経疾患を担当医や副担当医として研修し、折に触れて患児を介して保護者の心情の複雑性・多様性まで研修します。2年目以降は北九州市立医療センター周産期センター新生児部門、もしくは新水巻病院周産期センターで未熟児疾患・新生児疾患・先天異常疾患を3～6か月研修します。さらに、同じく北九州市立総合療育センターで心身障害児医療・発達障がい児医療・リハビリ医療などを3～6か月間それぞれ担当医として研修し、3年目は北九州市立八幡病院でほぼすべての領域で総合的に研修します。3年間を通じ、市立八幡病院小児診療の最大の特徴である小児総合救急外来診療に関わり、内因性疾患（思春期危急疾患も含めて）のみならず外因性疾患（特に事故外傷や外科的疾患など）の診療（担当医となり急性期～回復期・退院時）・家族への説明等を十分に研修します。

さらに、3年目は当院外来および遠賀中間医師会立おんが病院での乳児健康診査と予防接種や看護学校教育、デイサージェリー診療所での術前術後診療などの小児保健・社会医学、地域医療連携等の研修をします。

当科は福岡県北九州地域、および近隣市町村地区における小児救急センターとして位置づけられ、市の特別予算を受けて運営されています。市立病院としてのみならず、北九州地区の広域の子どものあらゆる救急医療に対応するため、小児に限らず全診療科が救急体制であり、各専門診療科、並びにその中での各専門領域に経験豊富な専門医を有し、1次から3次までの救急患者を24時間365

日受け入れる体制（小児病床数 100 床を有し）も有し、小児科医として欠くことのできない救急疾患・急性疾患のみならず小児専門領域の治療管理や子ども虐待・マルトリートメントに対する社会小児科医学も研修できる施設です。

当院は現在の病院に隣接する場所に、平成 30 年末（2018 年年末）に新病院開院の予定である。新たに北九州市立八幡病院・小児総合医療センターとしてスタートをきることとなります。「病院小児科」診療の中心となる総合診療部門のほか、下記の 4 つの専門医療診療チームが主導するセンターを併設します。平成 31 年度の新専攻医の皆さんは、この新しい病院での初めての専攻医となります。

傷害・安全予防センター	子どもの外傷治療・虐待医学とその発生・予防の検証
救急・集中治療センター	小児ER外来病床10床と小児集中治療室8床を運用
血液腫瘍・細胞移植センター	造血幹細胞移植に耐えうる無菌室10床を小児病棟内に設置
神経・てんかんセンター	難治性神経疾患・てんかんの診断と治療介入

2. 小児科専門研修はどのように行われるか [整備基準:13-16, 30]

3年間の小児科専門研修では、日本小児科学会が定めた「小児科医の到達目標」のレベルAの臨床能力の獲得をめざして研修を行います。到達度の自己評価と指導医からのアドバイスを受けるために、「**小児科専門研修手帳**」を常に携帯し、定期的に振り返りながら研修を進めます。

- 1) **臨床現場での学習**：外来、病棟、健診などで、到達目標に記載されたレベルAの臨床経験を積むことが基本となります。経験した症例は、指導医からフィードバック・アドバイスを受けながら、診療録の記載、サマリーレポートの作成、臨床研修手帳への記載（ふりかえりと指導医からのフィードバック）、臨床カンファレンス、抄読会（ジャーナルクラブ）、CPCでの発表、地域研修会での発表などを経て、知識、臨床能力を定着させてゆきます。
- 「小児科専門医の役割」に関する学習：日本小児科学会が定めた小児科専門医の役割を3年間で身につけるようにしてください（次項参照、研修手帳に記録）。
 - 「経験すべき症候」に関する学習：日本小児科学会が定めた経験すべき33症候のうち8割以上（27症候以上）を経験するようにしてください（次項参照、研修手帳に記録）。
 - 「経験すべき疾患」に関する学習：日本小児科学会が定めた経験すべき109疾患のうち8割以上（88症候以上）を経験するようにしてください（研修手帳参照、記録）。
 - 「習得すべき診療技能と手技」に関する学習：日本小児科学会が定めた経験すべき54技能のうち、8割以上（44技能以上）を経験するようにしてください（研修手帳に記録）。

＜北九州市立八幡病院小児科専門研修プログラムの年間スケジュール＞

月	1 年 次	2 年 次	3 年 次	修 了 者	
4	○				研修開始ガイダンス（研修医および指導医に各種資料を配布）
		○	○		研修手帳を研修管理委員会に提出し、チェックを受ける
				○	研修手帳・症例レポート等を研修管理委員会に提出し判定を受ける
					＜研修管理委員会＞ ・研修修了予定者の修了判定を行う ・2年次、3年次専攻医の研修の進捗状況の把握 ・次年度の研修プログラム、採用計画などの策定 ＜日本小児科学会福岡地方会＞ ＜日本小児科学会学術集会＞
5				○	専門医認定審査書類を準備する
	○	○	○	○	＜市立八幡病院小児科専門研修プログラム合同勉強会・歓迎会・修了式＞
6				○	専門医認定審査書類を専門医機構へ提出
					＜日本小児科学会福岡地方会＞
8	○	○	○		＜市立八幡病院小児科専門研修プログラム合同勉強会＞
					＜小児科専門医取得のためのインテンシブコース＞
9				○	小児科専門医試験

	○	○	○		臨床能力評価（Mini-CEX）を1回受ける
	○	○	○		研修手帳の記載、指導医とのふりかえり
					専門医更新、指導医認定・更新書類の提出
10					<研修管理委員会> ・研修の進捗状況の確認 ・次年度採用予定者の書類審査、面接、筆記試験 ・次年度採用者の決定 <日本小児科学会福岡地方会>
12	○	○	○		<市立八幡病院小児科専門研修プログラム合同勉強会・納会>
1	○	○	○		<日本小児科学会福岡地方会>
3	○	○	○		臨床能力評価（Mini-CEX）を1回受ける
	○	○	○		360度評価を1回受ける
	○	○	○		研修手帳の記載、指導医とのふりかえり、研修プログラム評価
					専門医更新、指導医認定・更新書類の提出

<当研修プログラムの週間スケジュール（市立八幡病院小児科専門研修プログラム）>
 グレー部分は特に教育的な行事です。詳細については4項を参照してください。

	月	火	水	木	金	土・日
7:00-7:30	受持患者情報の把握					
7:30-8:30	朝カンファレンス（前夜救急患者・入院患者の申し送り） 月・木 ミニレクチャー（15分）					週末日直 （2月）
8:30-9:00 9:00-13:00	受け持ち患者 診察 病棟外来処置	受け持ち患者 診察 病棟外来処置	受け持ち患者 診察 病棟外来処置	受け持ち患者 診察 病棟外来処置	受け持ち患者 診察 病棟外来処置	8時30分開始 土日も原則 入院児総回診
12:00-14:00	昼食 昼食前後で 総回診	昼食 昼食前後で 総回診	昼食 昼食前後で 総回診	昼食 昼食前後で 総回診	昼食 昼食前後で 総回診	
14:00-18:00	病棟	乳児健診	病棟	病棟	予防接種	地域の研修会・ 地方会・ その他の学会研 修会参加
		専門外来診療	エコーハンズ オン 専門外 来診療	エコーハンズ オン 専門外 来診療	トピックレク チャー 放射線カンファ レンス	
18:00-19:00	レジェンド研 修会 （1/月）	グラウンド ラウンド （1/月）		研究報告会	研修の振り返 り （1/月）	
	当直（1/週）					

2) 臨床現場を離れた学習：以下の学習機会を利用して、到達目標達成の助けとしてください。

- (1) 日本小児科学会学術集会、分科主催学会、地方会、研究会、セミナー、講習会等への参加
- (2) 小児科学会主催の「小児科専門医取得のためのインテンシブコース」（1泊2日）：到達目標に記載された24領域に関するポイントを3年間で網羅して学習できるセミナー
- (3) 学会等での症例発表
- (4) 日本小児科学会オンラインセミナー：医療安全、感染対策、医療倫理、医療者教育など
- (5) 日本小児科学会雑誌等の定期購読および症例報告等の投稿
- (6) 論文執筆：専門医取得のためには、小児科に関する論文を査読制度のある雑誌に1つ報告しなければなりません。論文執筆には1年以上の準備を要しますので、指導医の助言を受けながら、早めに論文テーマを決定し、論文執筆の準備を始めてください。

3) 自己学習：到達目標と研修手帳に記載されている小児疾患、病態、手技などの項目を自己評価しながら、不足した分野・疾患については自己学習を進めてください。

当センターでは、BLS、PALS、JATEC、JPTEC等のOff the Job Trainingを積極的に薦めているし、受講に支障がないように当直等の便宜を図っている。BLS、PALSは当施設で講習会を実施している。

- 4) 大学院進学：専門研修期間中、小児科学の大学院進学は可能ですが、専門研修に支障が出ないように、プログラム・研修施設について事前相談します。小児科臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修として扱われますが、研究内容によっては専門研修が延長になる場合もあります。

- 5) サブスペシャリティ研修：16項を参照してください。

3. 専攻医の到達目標

3-1. (習得すべき知識・技能・研修・態度など) [整備基準：4, 5, 8-11]

1) 「小児科専門医の役割」に関する到達目標：日本小児科学会が定めた小児科専門医としての役割を3年間で身につけるようにしてください（研修手帳に記録してください）。

これらは6項で述べるコア・コンピテンシーと同義です。

役割		1 年 目	2 年 目	修 了 時
子どもの 総合診療 医	子どもの総合診療 ●子どもの身体, 心理, 発育に関し、時間的・空間的に全体像を把握できる. ●子どもの疾病を生物学的, 心理社会的背景を含めて診察できる. ●EBMとNarrative-based Medicineを考慮した診療ができる.			
	成育医療 ●小児期だけにとどまらず, 思春期・成人期も見据えた医療を実践できる. ●次世代まで見据えた医療を実践できる.			
	小児救急医療 ●小児救急患者の重症度・緊急度を判断し, 適切な対応ができる ●小児救急の現場における保護者の不安に配慮ができる.			
	地域医療と社会資源の活用 ●地域の一次から二次までの小児医療を担う. ●小児医療の法律・制度・社会資源に精通し, 適切な地域医療を提供できる. ●小児保健の地域計画に参加し, 小児科に関わる専門職育成に関与できる.			
	患者・家族との信頼関係 ●多様な考えや背景を持つ小児患者と家族に対して信頼関係構築できる. ●家族全体の心理社会的因子に配慮し, 支援できる.			
育児・健 康支援者	プライマリ・ケアと育児支援 ●Common diseasesなど, 日常よくある子どもの健康問題に対応できる. ●家族の不安を把握し, 適切な育児支援ができる.			
	健康支援と予防医療 ●乳幼児・学童・思春期を通して健康支援・予防医療を実践できる.			
子どもの 代弁者	アドヴォカシー (advocacy) ●子どもに関する社会的な問題を認識できる. ●子どもや家族の代弁者として問題解決にあたることができる.			
学識・ 研究者	高次医療と病態研究 ●最新の医学情報を常に収集し, 現状の医療を検証できる. ●高次医療を経験し, 病態・診断・治療法の研究に積極的に参画する.			
	国際的視野 ●国際的な視野を持って小児医療に関わることができる. ●国際的な情報発信・国際貢献に積極的に関わる.			
医療のプ ロフェッ ショナル	医の倫理 ●子どもを一つの人格として捉え、年齢・発達段階に合わせた説明・告知と同意を得ることができる. ●患者のプライバシーに配慮し、小児科医としての社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできる.			

省察と研鑽	●他者からの評価を謙虚に受け止め、生涯自己省察と自己研鑽に努める。			
教育への貢献	●小児医療に関わるロールモデルとなり、後進の教育に貢献できる。 ●社会に対して小児医療に関する啓発的・教育的取り組みができる。			
協働医療	●小児医療にかかわる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できる。			
医療安全	●小児医療における安全管理・感染管理の適切なマネジメントができる。			
医療経済	●医療経済・保険制度・社会資源を考慮しつつ、適切な医療を実践できる。			

- 2) 「経験すべき症候」に関する到達目標：日本小児科学会が定めた経験すべき 33 症候のうち 8 割以上（27 症候以上）を経験するようにしてください（研修手帳に記録して下さい）。

症候	1 年 目	2 年 目	修 了 時
体温の異常			
発熱，不明熱，低体温			
疼痛			
頭痛			
胸痛			
腹痛（急性，反復性）			
背・腰痛，四肢痛，関節痛			
全身的症候			
泣き止まない，睡眠の異常			
発熱しやすい，かぜをひきやすい			
だるい，疲れやすい			
めまい，たちくらみ，顔色不良，気持ちが悪い			
ぐったりしている，脱水			
食欲がない，食が細い			
浮腫，黄疸			
成長の異常			
やせ，体重増加不良			
肥満，低身長，性成熟異常			
外表奇形・形態異常			
顔貌の異常，唇・口腔の発生異常，鼠径ヘルニア，臍ヘルニア，股関節の異常			
皮膚，爪の異常			
発疹，湿疹，皮膚のびらん，蕁麻疹，浮腫，母斑，膿瘍，皮下の腫瘍，乳腺の異常，爪の異常，発毛の異常，紫斑			
頭頸部の異常			
大頭，小頭，大泉門の異常			
頸部の腫脹，耳介周囲の腫脹，リンパ節腫大，耳痛，結膜充血			
消化器症状			
嘔吐（吐血），下痢，下血，血便，便秘，口内のただれ，裂肛			
腹部膨満，肝腫大，腹部腫瘤			
呼吸器症状			
咳，嘔声，喀痰，喘鳴，呼吸困難，陥没呼吸，呼吸不整，多呼吸			
鼻閉，鼻汁，咽頭痛，扁桃肥大，いびき			

循環器症状			
心雑音, 脈拍の異常, チアノーゼ, 血圧の異常			
血液の異常			
貧血, 鼻出血, 出血傾向, 脾腫			
泌尿生殖器の異常			
排尿痛, 頻尿, 乏尿, 失禁, 多飲, 多尿, 血尿, 陰嚢腫大, 外性器の異常			
神経・筋症状			
けいれん, 意識障害			
歩行異常, 不随意運動, 麻痺, 筋力が弱い, 体が柔らかい, floppy infant			
発達の問題			
発達の遅れ, 落ち着きがない, 言葉が遅い, 構音障害(吃音), 学習困難			
行動の問題			
夜尿, 遺糞			
泣き入りひきつけ, 夜泣き, 夜驚, 指しゃぶり, 自慰, チック			
うつ, 不登校, 虐待, 家庭の危機			
事故, 傷害			
溺水, 管腔異物, 誤飲, 誤嚥, 熱傷, 虫刺			
臨死, 死			
臨死, 死			

- 3) 「経験すべき疾患」に関する到達目標: 日本小児科学会が定めた経験すべき 109 疾患のうち、8 割以上 (88 疾患以上) を経験するようにしてください (研修手帳に記録してください)。

新生児疾患, 先天異常	感染症	循環器疾患	精神・行動・心身医学
低出生体重児	麻疹, 風疹	先天性心疾患	心身症, 心身医学的問題
新生児黄疸	単純ヘルペス感染症	川崎病の冠動脈障害	夜尿
呼吸窮迫症候群	水痘・帯状疱疹	房室ブロック	心因性頻尿
新生児仮死	伝染性単核球症	頻拍発作	発達遅滞, 言語発達遅滞
新生児の感染症	突発性発疹	血液, 腫瘍	自閉症スペクトラム
マス・スクリーニング	伝染性紅斑	鉄欠乏性貧血	AD/HD
先天異常, 染色体異常症	手足口病, ヘルパンギーナ	血小板減少	救急
先天代謝, 代謝性疾患	インフルエンザ	白血病, リンパ腫	けいれん発作
先天代謝異常症	アデノウイルス感染症	小児がん	喘息発作
代謝性疾患	溶連菌感染症	腎・泌尿器	ショック
内分泌	感染性胃腸炎	急性糸球体腎炎	急性心不全
低身長, 成長障害	血便を呈する細菌性腸炎	ネフローゼ症候群	脱水症
単純性肥満, 症候性肥満	尿路感染症	慢性腎炎	急性腹症
性早熟症, 思春期早発症	皮膚感染症	尿細管機能異常症	急性腎不全
糖尿病	マイコプラズマ感染症	尿路奇形	虐待, ネグレクト
生体防御, 免疫	クラミジア感染症	生殖器	乳児突然死症候群 /ALTE
免疫不全症	百日咳	亀頭包皮炎	来院時心肺停止
免疫異常症	RSウイルス感染症	外陰膣炎	溺水, 外傷, 熱傷
膠原病, リウマチ性疾患	肺炎	陰嚢水腫, 精索水腫	異物誤飲・誤嚥, 中毒
若年性特発性関節炎	急性中耳炎	停留精巣	思春期
SLE	髄膜炎(化膿性, 無菌性)	包茎	過敏性腸症候群
川崎病	敗血症, 菌血症	神経・筋疾患	起立性調節障害
血管性紫斑病	真菌感染症	熱性けいれん	性感染, 性感染症
多型滲出性紅斑症候群	呼吸器	てんかん	月経の異常
アレルギー疾患	クループ症候群	顔面神経麻痺	関連領域
気管支喘息	細気管支炎	脳炎, 脳症	虫垂炎
アレルギー性鼻炎・結膜炎	気道異物	脳性麻痺	鼠径ヘルニア

アトピー性皮膚炎	消化器	高次脳機能障害	肘内障
蕁麻疹, 血管性浮腫	腸重積	筋ジストロフィー	先天性股関節脱臼
食物アレルギー	反復性腹痛	その他	母斑, 血管腫
アナフィラキシー	肝機能障害	単純性股関節炎	扁桃, アデノイド肥大
	炎症性腸疾患	hMPV 感染症	鼻出血

- 4) 「習得すべき診療技能と手技」に関する到達目標：日本小児科学会が定めた経験すべき 54 技能のうち、8 割以上 (44 技能以上) を経験するようにしてください (研修手帳に記録してください)。

身体計測	採尿 (カテ採尿・膀胱穿刺)	けいれん重積の処置と治療	
皮脂厚測定	導尿	末梢血液検査	
バイタルサイン	腰椎穿刺	尿一般検査、生化学検査、蓄尿	
小奇形・形態異常の評価	骨髄穿刺	便一般検査	
前弯試験	浣腸	髄液一般検査	
透光試験 (陰嚢, 脳室)	高圧浣腸 (腸重積整復術)	細菌培養検査、塗抹染色	
眼底検査	エアゾール吸入	血液ガス分析	
鼓膜検査	酸素吸入	血糖・ビリルビン簡易測定	
鼻腔検査	臍肉芽の処置	心電図検査 (手技)	
注射法	静脈内注射	鼠径ヘルニアの還納	X線単純撮影
	筋肉内注射	小外科, 膿瘍の外科処置	消化管造影
	皮下注射	肘内障の整復	静脈性尿路腎盂造影
	皮内注射	輸血	CT検査
採血法	毛細管採血	胃洗浄	腹部超音波検査
	静脈血採血	経管栄養法	排泄性膀胱尿道造影
	動脈血採血	簡易静脈圧測定	頭頸部超音波検査
静脈路確保	新生児	光線療法	股関節超音波検査
	乳児	心肺蘇生	
	幼児	消毒・滅菌法	

3-2. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得 [整備基準:13]

当プログラムでは様々な知識・技能の習得機会（教育的行事）を設けています。

※ カンファレンスは各プログラムで柔軟に構築して結構ですが、日本小児科学会の到達目標に準拠してください。

- 1) 朝カンファレンス（前日救急受診児・入院児）・前日総回診後入院児総回診（毎日）：毎朝、前夜受診患者・急変病棟患者の申し送りを行い、患者情報の全員での共有と診断初期治療・対応に関する議論を行う。その後、前日総回診後入院児の回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進める。さらに、臨床倫理など小児科専門医のプロフェッショナリズムについても学ぶ。
- 2) 総回診（毎日）：受持患者について院長・統括部長・小児救急センター長をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受ける。受持以外の症例についても見識を深める。
- 3) 準夜・深夜業務：1年目は上級医2人と一緒に毎晩3-5名の小児科医による勤務体制であるため、上級医に多方面での知識・スキルを聴き習うことができるため、効率的な屋根瓦式学習法であり、その効果も高いとこれまでの専攻医に評価が高い。
- 4) 症例検討会（隔週）：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行う。
- 5) ハンズオンセミナー（3日/週）：診療スキルの実践的なトレーニングを行う。特にエコーに関しては力を入れて、研修を行っています。
- 6) グラウンドラウンド（隔月）：臨床トピックについて、専門家のレクチャー、関連する症例報告を行い、総合討論を行う。
- 7) CPC：死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を検討する。
- 8) 関連診療科との合同カンファレンス（毎週）：小児外科医・放射線専門医・整形外科・形成外科と合同カンファを毎週～隔週に行い、術前・術後症例の問題点、改善点等を議論して、関連診療科との診断技術・保護者説明技術を研修する。
- 9) 抄読会・研究会・研修会報告（毎週）：朝カンファで議論になった点に関する論文概要を、担当を決めて口頭説明し、意見交換、情報共有を行う。研究会・研修会報告では、出席した医局員（専攻医・指導医）が勉強してきたこと等を紹介（特に行けなかった医局員に向けて）して、討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学ぶ。
- 10) 家族と子どもの支援委員会会議（毎月）：当該付きに虐待・マルトリートメントと判断された事案に対する院内委員会の会議であり、多職種（看護師・児童相談所・ソーシャルワーカー・検事・警察）で構成される。虐待予防拠点病院としての機能を経験できる。
- 11) 専門医実践レクチャー

専攻医を中心に日頃の疑問を院長に尋ねて研鑽を深める研修会を毎月1回行っている。いわゆる経験則的なものの考え方や家族への説明の仕方、或いは医療スキルのコツなどである。

- 1 2) 合同勉強会 (年2回) : 当プログラムに参加するすべての専攻医が一同に会し、勉強会を行う。多施設にいる専攻医と指導医の交流・親睦を図る。地区小児科医会研修会などのあとを利用して行う。
- 1 3) ふりかえり : 毎月1回、専攻医と指導医が1対1またはグループで集まり、1か月間の研修をふりかえる。研修上の問題点や悩み、研修(就業)環境、研修の進め方、キャリア形成などについてインフォーマルな雰囲気での話し合いを行う。
- 1 4) 学生・初期研修医等に対する指導 : 病棟や外来で医学生・初期研修医・看護実習生を指導する。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけている。

3-3. 学問的姿勢 [整備基準 : 6, 12, 30]

当プログラムでは、3年間の研修を通じて科学的思考、生涯学習の姿勢、研究への関心などの学問的姿勢も学んでいきます。

- 1) 受持患者などについて、常に最新の医学情報を吸収し、診断・治療に反映できる。
- 2) 高次医療を経験し、病態・診断・治療法の臨床研究に協力する。
- 3) 国際的な視野を持って小児医療を行い、国際的な情報発信・貢献に協力する。
- 4) 指導医などからの評価を謙虚に受け止め、ふりかえりと生涯学習ができるようにする。
- 5) 小児救急における高名な小児科医を招聘して直接 face to face で話を聞き、質問できるような場を積極的に設けている。
- 6) 「小児救急ワークショップ in 北九州」を毎年、市保健福祉局と一緒に当院が主催しており、講師として3名ほど実際に現場で臨床を長年行った先生がたを招聘しており、その講師との交流もきわめて有用に活用している。実際にサブスペシャリティを講師の先生の施設に求めて旅だった専攻医も今までに多数存在している。
- 7) 大分県中央病院小児科・麻生飯塚病院小児科との勉強会を年1回施行している。いわゆるお互いの施設の専攻医が発表を行い、お互いに勉強を行うとともに、レジェンドクラスの講師を招聘するとともにお互いの指導医がレクチャーを披露する勉強会であり、その後親睦を深めるために一泊かけての勉強会である。
- 8) 手稲溪仁会病院小児科、松戸市立病院小児総合医療センター、神戸中央市民病院小児科と当科の4病院で「ブートキャンプ」(勉強会)を4施設で、持ち回り年1回1泊2日で行い、主任指導医からの専門的知識指導による勉強と多くの若い仲間との交流ができて、実践的な小児医療の世界を体験できる。

また、小児科専門医資格を受験するためには、査読制度のある雑誌に小児科に関連する筆頭論文1編を発表していることが求められます。論文執筆には1年以上の準備を要しますので、研修2年目のうちに指導医の助言を受けながら、論文テーマを決定し、投稿の準備を始めることが望まれます。

3-4. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性 [整備基準：7]

コアコンピテンシーとは医師としての中核的な能力あるいは姿勢のことで、第3項の「小児科専門医の役割」に関する到達目標が、これに該当します。特に「医療のプロフェッショナル」は小児科専門医としての倫理性や社会性に焦点を当てています。

- 1) 子どもを一個の人格として捉え、子ども自身と保護者に寄り添う姿勢を忘れずに、年齢・発達段階に合わせた説明・告知と同意を得ることができる。
- 2) 患者のプライバシーに配慮し、小児科医としての社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできる。
- 3) 小児医療に関わるロールモデルとなり、後進の教育に貢献できる。
- 4) 社会に対して小児医療に関する啓発的・教育的取り組みができる。
- 5) 小児医療に関わる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できる。
- 6) 小児医療の現場における安全管理・感染管理に対して適切なマネジメントができる。
- 7) 医療経済・社会保険制度・社会的資源を考慮しつつ、適切な医療を実践できる。
- 8) 地域の小児医療関係者との連携・情報共有を確実なものとして、地域の子ども達を地域社会全体で健全養育するという思いで行動ができる。

4. 研修施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方

4-1 年次毎の研修計画

[整備基準：16, 25, 31]

日本小児科学会では研修年次毎の達成度（マイルストーン）を定めています（下表）。小児科専門研修においては広範な領域をローテーションしながら研修するため、研修途中においてはマイルストーンの達成度は専攻医ごとに異なっていて構いませんが、研修修了時点で一定レベルに達していることが望まれます。「小児科専門医の役割（16項目）」の各項目に関するマイルストーンについては研修マニュアルを参照してください。研修3年次はチーフレジデントとして専攻医全体のとりまとめ、後輩の指導、研修プログラムへの積極的関与など、責任者としての役割が期待されます。

1年次	健康な子どもと家族、common disease、小児保健・医療制度の理解 基本的診療技能（面接、診察、手技）、健康診査法の修得 小児科総合医、育児・健康支援者としての役割を自覚する 基本的な小児救急疾患への関わりと理解をする
2年次	病児と家族、重症疾患・救急疾患の理解、小児集中治療疾患の経験 診療技能に習熟し、重症疾患・救急疾患に的確に対応できる 小児科総合医としての実践力を高める、後輩の指導 高度先進医療、希少難病、障がい児に関する理解と技能の習得 小児救急疾患（特に外因性・事故外傷を含む）の診療能力の向上
3年次 (チーフレジデント)	高度先進医療、希少難病、障がい児に関する、更なる技能の修得、および在宅医療のスキルの習得、小児集中治療のスキルの習得と指導 子どもの代弁者、学識者、プロフェッショナルとしての実践 扱い難い保護者に対しても対応が偏らずできること、子どもの安全を守ることができることなど社会的対応の習得 専攻医とりまとめ、後輩指導、研修プログラムへの積極的関与

4-2 研修施設群と研修モデル

[整備基準：23 - 37]

小児科専門研修プログラムは3年間（36か月間）と定められています。本プログラムにおける研修施設群と、年次毎の研修モデルは下表のとおりです。地域医療研修は、本病院及びおんが病院及び新水巻病院で経験するようにプログラムされています。

	研修基幹施設	連携施設	連携施設	連携施設
	北九州市立八幡	北九州市立医療	北九州市立総合	遠賀中間医師会

Children's Medical Center, Kitakyushu city YAHATA Hospital
北九州市立八幡病院 小児総合医療センター

	病院	センター	療育センター	立おんが病院
	北九州地区医療圏	北九州地区医療圏	北九州地区医療圏	北九州地区医療圏
小児科年間入院数	4,226	777 (実数)	310	92
小児科年間外来数	40,059	2,711 (実数)	6,325	4,889
小児科専門医数	12	2 (NICUのみ)	4	1
(うち指導医数)	8	2	2	0
専攻医 イ	1	2	3	1-①
専攻医 ロ	1	3	2	1-②
専攻医 ハ	1	3	2	1-③
専攻医 ニ	1	2	3	1-④
専攻医 ホ	1	2	3	1-⑤
専攻医 ヘ	1	3	2	1-⑥
専攻医 ト	1	3	2	1-⑦
研修期間	24～30 か月	4 か月(2年目以降)	4 か月 (2年目以降)	週1日変則的に3年目で経験
施設での研修内容	小児医としてヒトの成長と発達をみまもり援助するという心構え確立する。小児科学のすべての領域をくまなく経験し、小児科医として必須の知識と診療技能を習得する。特に総合小児救急医療を習得する	未熟児・新生児医療 (NICU) を6 か月間研修するとともに、健康成熟児の診療も周産期の母親の心情の把握の修練も行う	ハンディキャップを背負った子ども達とその保護者に対する診療対応を習得するとともに彼らの急変対応を修練する。さらに発達障がいの子どもの対応も学ぶ	乳児健診・予防接種など小児社会医学を中心に Common disease への対応を、本院からの出向で習得する。

その他の関連施設名	小児科年間入院数	小児科年間外来数	小児科専門医数	うち指導医数
新水巻病院	227	9,407	2	1

<領域別の研修目標>

Children's Medical Center, Kitakyushu city YAHATA Hospital
北九州市立八幡病院 小児総合医療センター

研修領域	研修目標	基幹研修施設	研修連携施設	その他の関連施設
診療技能全般	<p>小児の患者に適切に対応し、特に生命にかかわる疾患や治療可能な疾患を見逃さないために小児に見られる各症候を理解し情報収集と身体診察を通じて病態を推測するとともに、疾患の出現頻度と重症度に応じて的確に診断し、患者・家族の心理過程や苦痛、生活への影響に配慮する能力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平易な言葉で患者や家族とコミュニケーションをとる。 2. 症候をめぐる患者と家族の解釈モデルと期待を把握し、適切に対応する。 3. 目と耳と手とを駆使し、診察用具を適切に使用して、基本的な診察を行う。バイタルサインを正確に評価する 4. 対診・紹介を通して、医療者間の人間関係を確立する。 5. 地域の医療資源を活用する。 6. 診療録に利用価値の高い診療情報を記載する。 7. 対症療法を適切に実施する。 8. 臨床検査の基本を理解し、適切に選択・実施する。 9. 特殊な疾患・希有な疾患等に関して指導医やプログラム委員会での対応が困難な場合には全国の専門医への相談等を仲介して、原因や病因の究明をきちんとやる姿勢を身につける。 	北九州市立八幡病院	おんが病院 新水巻病院 北九州市立総合療育センター	
小児保健	<p>子どもが家庭や地域社会の一員として心身の健康を維持・向上させるために、成長発達に影響を与える文化・経済・社会的要因の解明に努め、不都合な環境条件から子どもを保護し、疾病・傷害・中毒の発生を未然に防ぎ、医療・社会福祉資源を活用しつつ子どもや家族を支援する能力を身につける。</p>	同上	おんが病院 新水巻病院	
成長・発達	<p>子どもの成長・発達に異常をきたす疾患を適切に診断・治療するために、身体・各臓器の成長、精神運動発達、成長と発達に影響する因子を理解し、成長と発達を正しく評価し、患者と家族の心理社会的背景に配慮して指導する能力を身につける。</p>	同上	同上	
栄養	<p>小児の栄養改善のために、栄養所要量や栄養生理を熟知し、母乳育児や食育を推進し、家庭や地域、環境に配慮し、適切な栄養指導を行う能力を身につける。</p>	同上	同上	
水・電解質	<p>小児の体液生理、電解質、酸塩基平衡の特殊性を理解し、脱水や水・電解質異常の的確な診断と治療を行う能力を身につける。入院患者を担当しながら、全身管理の一環として水・電解質管理を学ぶ。</p>	同上	北九州市立医療センター	
新生児	<p>新生児の生理、新生児期特有の疾患と病態を理解し、母子早期接触や母乳栄養を推進し、母子の愛着形成を支援するとともに、母体情報、妊娠・分娩経過、系統的な身体診察、注意深い観察に基づいて病態を推測し、侵襲度に配慮して検査や治療を行う能力を修得する。</p>		同上 新水巻病院	
先天異常	<p>主な先天異常、染色体異常、奇形症候群、遺伝子異常のスクリーニングや診断を一般診療の中で行うために、それら疾患についての知識を有し、スクリーニング、遺伝医学的診断法、遺伝カウンセリングの基本的知識と技能を身につける。</p>	北九州市立八幡病院	同上	
先天代謝異常・代謝性疾患	<p>主な先天代謝異常症の診断と治療を行うために、先天代謝異常症の概念と基本的な分類を理解し、新生児マス・スクリーニング陽性者には適切に対応し、一般診療の中で種々の症状・所見から先天代謝異常症を疑い、緊急を要する病態には迅速に対応し、適切なタイミングで専門医へ紹介する技能を身につける。</p>	同上	同上	
内分泌	<p>内分泌疾患に対して適切な初期対応と長期管理を行うために、各種ホルモンの一般的概念、内分泌疾患の病態生理を理解し、スクリーニング検査や鑑別診断、緊急度に応じた治療を行うことのできる基本的能力を身につける。</p>	同上		
生体防御免疫	<p>一般診療の中で免疫異常症を疑い、適切な診断と治療ができるために、各年齢における免疫能の特徴を理解し、免疫不全状態における感染症の診断、日常生活・学校生活へのアドバイスと配慮ができ、専門医に紹介できる能力を身につける。</p>	同上		

膠原病リウマチ性疾患	主な膠原病・リウマチ性疾患について小児の診断基準に基づいた診断、標準的治療とその効果判定を行うために、系統的な身体診察、検査の選択、結果の解釈を身につけるとともに、小児リウマチの専門家との連携、整形外科・皮膚科・眼科・リハビリテーション科など多専門職とのチーム医療を行う能力を身につける。	同上		
アレルギー	アレルギー反応の一連の仕組み、非即時型アレルギーの病態、IgE抗体を介した即時型アレルギーについて、アトピー素因を含めた病歴聴取、症状の推移の重要性を理解し、十分な臨床経験を積んで、検査・診断・治療法を修得する。アナフィラキシー発作の経験とその治療法および日常生活上での指導等が正確にできるようにその知識と技術を身につける。	同上		
感染症	主な小児期の感染症について、疫学、病原体の特徴、感染機構、病態、診断・治療法、予防法を理解し、病原体の同定、感染経路の追究、感染症サーベイランスを行うとともに、薬剤耐性菌の発生や院内感染予防を認識し、患者・家族および地域に対して適切な指導ができる能力を修得する。	同上		
呼吸器	小児の呼吸器疾患を適切に診断・治療するため、成長・発達にともなう呼吸器官の解剖学的特性や生理的变化、小児の身体所見の特徴を理解し、それらに基づいた診療を行い、急性呼吸不全患者には迅速な初期対応を、慢性呼吸不全患者には心理社会的側面にも配慮した対応能力を身につける。	同上	北九州市立総合療育センター	
消化器	小児の主な消化器疾患の病態と症候を理解し、病歴聴取・診察・検査により適切な診断・治療・予防を行い、必要に応じて外科等の専門家と連携し、緊急を要する消化器疾患に迅速に対応する能力を身につける。	同上		
循環器	主な小児の心血管系異常について、適切な病歴聴取と身体診察を行い、基本的な心電図・超音波検査結果を評価し、初期診断と重症度を把握し、必要に応じて専門家と連携し、救急疾患については迅速な治療対応を行う能力を身につける。	同上	北九州市立医療センター	
血液	造血系の発生・発達、止血機構、血球と凝固因子・線溶系異常の発生機序、病態を理解し、小児の血液疾患の鑑別診断を行い、頻度の高い疾患については正しい治療を行う能力を修得する。	同上		
腫瘍	小児の悪性腫瘍の一般的特性、頻度の高い良性腫瘍を知り、初期診断法と治療の原則を理解するとともに、集学的治療の重要性を認識して、腫瘍性疾患の診断と治療を行う能力を修得する。	同上		
腎・泌尿器	頻度の高い腎・泌尿器疾患の診断ができ、適切な治療を行い、慢性疾患においては成長発達に配慮し、緊急を要する病態や難治性疾患には指導医や専門家の監督下で適切に対応する能力を修得する。	同上		
生殖器	専門家チーム（小児内分泌科医、小児外科医/泌尿器科医、形成外科医、小児精神科医/心理士、婦人科医、臨床遺伝医、新生児科医などから構成されるチーム）と連携し、心理的側面に配慮しつつ治療方針を決定する能力を修得する。	同上		
神経・筋	主な小児神経・筋疾患について、病歴聴取、年齢に応じた神経学的診察、精神運動発達および神経学的評価、脳波、神経放射線画像などの基本的検査を実施し、診断・治療計画を立案し、また複雑・難治な病態については、指導医や専門家の指導のもと、患者・家族との良好な人間関係の構築、維持に努め、適切な診療を行う能力を修得する。	同上		
精神・行動・心身医学	小児の訴える身体症状の背景に心身医学的問題があることを認識し、出生前からの小児の発達と母子相互作用を理解し、主な小児精神疾患、心身症、精神発達の異常、親子関係の問題に対する適切な初期診断と対応を行い、必要に応じて専門家に紹介する能力を身につける。特に困っている保護者へ寄り添い、親身に対応してあげる技量を身につける。	同上	北九州市立総合療育センター 新水巻病院	
救急	小児のあらゆる救急疾患（内因性・外因性問わず）の特性を熟知	同上		

	し、バイタルサインを把握して年齢と重症度に応じた適切な救命・救急処置およびトリアージを行い、高次医療施設に転送すべきか否かとその時期を判断する能力を修得する。総合小児救急医療を実践し、全ての子ども達を初療し、専門診療科との連携できる能力を習得する。簡単な小外科技術を習得する。さらに事故外傷などを含めた予防医学の重要性を認識し、その方法を保護者・子どもに指導できるようなスキルを習得する。			
思春期医学	思春期の子どものごころと体の特性を理解し、健康問題を抱える思春期の子どもと家族に対して、適切な判断・対応・治療・予防措置などの支援を行うとともに、関連する診療科・機関と連携して社会的支援を行う能力を身につける。思春期危急疾患（自殺企図児への対応など）の経験と対応を学ぶ。	同上		
地域総合小児医療	地域の一次・二次医療、健康増進、予防医療、育児支援などを総合的に担い、地域の各種社会資源・人的資源と連携し、地域全体の子どもを全人的・継続的に診て、小児の疾病の診療や成長発達、健康の支援者としての役割を果たす能力を修得する。	同上	おんが病院	

※ 研修目標は各施設で作成したもので構いませんが、日本小児科学会の到達目標に準拠してください。

※ 各領域の診療実績（病院における患者数）は申請書に記載があります。

4-3 地域医療の考え方

[整備基準：25, 26, 28, 29]

当プログラムは北九州市立八幡病院小児科を基幹施設とし、福岡県の北九州市医療圏と北九州地区医療圏の小児医療を支えるものであり、地域医療に十分配慮したものです。3年間の研修期間のうち2年間は市立八幡病院において地域医療全般を、6か月間は市立医療センター及び市立総合療育センターで地域救急医療を経験するようにプログラムされています。地域医療においては、小児科専門医の到達目標分野24「地域小児総合医療」（下記）を参照して、地域医療に関する能力を研鑽してください。また、「地域小児総合医療」を、八幡病院以外にも連携施設である遠賀中間医師会立おんが病院でも研修することができます。さらに在宅医療に関しても、八幡病院と連携施設の市立総合療育センターでも研修することができます。

<地域小児総合医療の具体的到達目標>

- (1) 子どもの疾病・傷害の予防、早期発見、基本的な治療ができる。
 - (ア) 子どもや養育者とのコミュニケーションを図り、信頼関係を構築できる。
 - (イ) 予防接種について、養育者に接種計画、効果、副反応を説明し、適切に実施する。副反応・事故が生じた場合には適切に対処できる。
- (2) 子どもをとりまく家族・園・学校など環境の把握ができる。
- (3) 養育者の経済的・精神的な育児困難がないかを見極め、虐待を念頭に置いた対応ができる。
- (4) 子どもや養育者からの確かな情報収集ができる。
- (5) Common Diseaseの診断や治療、ホームケアについて本人と養育者に分かりやすく説明できる。
- (6) 重症度や緊急度を判断し、初期対応と、適切な医療機関への紹介ができる。
- (7) 稀少疾患・専門性の高い疾患を想起し、専門医へ紹介できる。
- (8) 乳幼児健康診査・育児相談を実施できる。
 - (ア) 成長・発達障害、視・聴覚異常、行動異常、虐待等を疑うことができる。
 - (イ) 養育者の育児不安を受け止めることができる。
 - (ウ) 基本的な育児相談、栄養指導、生活指導ができる。
- (9) 地域の医療・保健・福祉・行政の専門職、スタッフとコミュニケーションをとり協働できる。
- (10) 地域の連携機関の概要を知り、医療・保健・福祉・行政の専門職と連携し、小児の育ちを支える適切な対応ができる。

5. 専門研修の評価

[整備基準：17-22]

専門研修を有益なものとし、到達目標達成を促すために、当プログラムでは指導医が専攻医に対して様々な形成的評価（アドバイス、フィードバック）を行います。研修医自身も常に自己評価を行うことが重要です（振り返りの習慣、研修手帳の記載など）。毎年2回、各専攻医の研修の進捗状況をチェックし、3年間の研修修了時には目標達成度を総括的に評価し、研修修了認定を行います。指導医は、臨床経験10年以上の経験豊富な臨床医で、適切な教育・指導法を習得するために、日本小児科学会が主催する指導医講習会もしくはオンラインセミナーで研修を受け、日本小児科学会から指導医としての認定を受けています。

また、市立八幡病院小児科専門研修プログラムでは各指導医により指導内容・方法が偏らないように、指導医マニュアルを作成（資料①として巻末に掲載）しており、均一な指導ができるように心がけている。さらに指導医評価表（資料②として巻末に掲載）を設けており、形成的に専攻医からの指導医評価を受けて、指導医の指導能力向上を図るように努めている。

1) 指導医による形成的評価

- 日々の診療において専攻医を指導し、アドバイス・フィードバックを行う。
- 毎週の教育的行事（回診、カンファレンス等）で、研修医のプレゼンなどに対してアドバイス・フィードバックを行う。
- 毎月1回の「ふりかえり」では、専攻医と指導医が1対1またはグループで集まり、研修をふりかえり、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて非公式の話し合いが持たれ、指導医からアドバイスを行う。
- 毎年2回、専攻医の診療を観察し、記録・評価して研修医にフィードバックする(Mini-CEX)。
- 毎年2回、研修手帳のチェックを受ける。

2) 専攻医による自己評価

- 日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、ふりかえりを行う。
- 毎月1回の「ふりかえり」では、指導医とともに1か月間の研修をふりかえり、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持つ。
- 毎年2回、Mini-CEXによる評価を受け、その際、自己評価も行う。
- 毎年2回、研修手帳の記載を行い、自己評価とふりかえりを行う。

3) 総括的評価

- 毎年1回、年度末に研修病院での360度評価を受ける（指導医、医療スタッフなど多職種）。
- 3年間の総合的な修了判定は研修管理委員会が行います。修了認定されると小児科専門医試験の申請を行うことができます。

6. 修了判定

[整備基準：21, 22, 53]

- 1) 評価項目：(1) 小児科医として必須の知識および問題解決能力、(2) 小児科専門医としての適切なコミュニケーション能力および態度について、指導医・同僚研修医・看護師等の評価に基づき、研修管理委員会で修了判定を行います。
- 2) 評価基準と時期
 - (1) の評価：簡易診療能力評価 Mini-CEX (mini-clinical Evaluation Exercise)を参考にします。指導医は専攻医の診療を 10 分程度観察して研修手帳に記録し、その後研修医と 5～10 分程度振り返ります。評価項目は、病歴聴取、診察、コミュニケーション（態度）、臨床判断、プロフェッショナリズム、まとめる力・能率、総合的評価の 7 項目です。毎年 2 回（10 月頃と 3 月頃）、3 年間の専門研修期間中に合計 6 回行います。
 - (2) の評価：360 度評価を参考にします。専門研修プログラム統括責任者、連携施設の専門研修担当者、指導医、小児科看護師、同時期に研修した専攻医などが、①総合診療能力、②育児支援の姿勢、③代弁する姿勢、④学識獲得の努力、⑤プロフェッショナルとしての態度について、概略的な 360 度評価を行います。
 - (3) 総括判定：研修管理委員会が上記の Mini-CEX, 360 度評価を参考に、研修手帳の記載、症例サマリー、診療活動・学術活動などを総合的に評価して、修了判定します。研修修了判定がおりないと、小児科専門医試験を受験できません。
 - (4) 「妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止」、「疾病での休止」、「短時間雇用形態での研修」、「専門研修プログラムを移動する場合」、「その他一時的にプログラムを中断する場合」に相当する場合は、その都度諸事情および研修期間等を考慮して判定を行います。

<専門医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと>

プログラム修了認定、小児科専門医試験の受験のためには、以下の条件が満たされなければなりません。チェックリストとして利用して下さい。

1	「小児科専門医の役割」に関する目標達成（研修手帳）
2	「経験すべき症候」に関する目標達成（研修手帳）
3	「経験すべき疾患」に関する目標達成（研修手帳）
4	「習得すべき診療技能と手技」に関する目標達成（研修手帳）
5	Mini-CEXによる評価（年 2 回、合計 6 回、研修手帳）
6	360 度評価（年 1 回、合計 3 回）
7	30 症例のサマリー（領域別指定疾患を含むこと）
8	講習会受講：医療安全、医療倫理、感染防止など
9	筆頭論文 1 編の執筆（小児科関連論文、査読制度のある雑誌掲載）

7. 専門研修プログラム管理委員会

7-1 専門研修プログラム管理委員会の業務 [整備基準：35～39]

本プログラムでは、基幹施設である北九州市立八幡病院小児科に、基幹施設の研修担当委員および各連携施設での責任者から構成され、専門研修プログラムを総合的に管理運営する「専門研修プログラム管理委員会」を、また連携施設には「専門研修連携施設プログラム担当者」を置いています。プログラム統括責任者は研修プログラム管理委員会を定期的に開催し、以下の(1)～(10)の役割と権限を担います。専門研修プログラム管理委員会の構成メンバーには、医師以外に、看護部、病院事務部、薬剤部、検査部などの多種職が含まれます。

<研修プログラム管理委員会の業務>

- 1) 研修カリキュラムの作成・運用・評価
- 2) 個々の専攻医に対する研修計画の立案
- 3) 研修の進捗状況の把握（年度毎の評価）
- 4) 研修修了認定（専門医試験受験資格の判定）
- 5) 研修施設・環境の整備
- 6) 指導體制の整備（指導医FDの推進）
- 7) 学会・専門医機構との連携、情報収集
- 8) 専攻医受け入れ人数などの決定
- 9) 専門研修を開始した専攻医の把握と登録
- 10) サイトビジットへの対応

7-2 専門医の就業環境（統括責任者、研修施設管理者） [整備基準：40]

本プログラムの統括責任者と研修施設の管理者は、専攻医の勤務環境と健康に対する責任を負い、専攻医のために適切な労働環境の整備を行います。専攻医の心身の健康を配慮し、勤務時間が週80時間を越えないよう、また過重な勤務にならないよう、適切な休日の保証と工夫を行うよう配慮します。当直業務と夜間診療業務の区別と、それぞれに対応した適切な対価の支給を行い、当直あるいは夜間診療業務に対しての適切なバックアップ体制を整備します。研修年次毎に専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、その内容は北九州市立八幡病院小児科専門研修管理委員会に報告されます。

7-3 専門研修プログラムの改善 [整備基準：49, 50, 51]

- 1) 研修プログラム評価（年度毎）：専攻医はプログラム評価表（下記）に記載し、毎年1回（年度末）北九州市立八幡病院研修管理委員会に提出してください。専攻医からプログラム、指導体制等に対して、いかなる意見があっても、専攻医はそれによる不利益を被ることはありません。

「指導に問題あり」と考えられる指導医に対しては、基幹施設・連携施設のプログラム担当者、あるいは研修管理委員会として対応措置を検討します。問題が大きい場合、専攻医の安全を守る必要がある場合などには、専門医機構の小児科領域研修委員会の協力を得て対応します。

平成（ ）年度 北九州市立八幡病院小児科研修プログラム評価		
専攻医氏名		
研修施設	市立八幡病院	市立医療センター 市立総合療育センター
研修環境・待遇		
経験症例・手技		
指導体制		
指導方法		
自由記載欄		

- 2) 研修プログラム評価（3年間の総括）：3年間の研修修了時には、当プログラム全般について研修カリキュラムの評価を記載し、専門医機構へ提出してください。（小児科臨床研修手帳）

＜研修カリキュラム評価（3年間の総括）＞		
A 良い B やや良い C やや不十分 D 不十分		
項目	評価	コメント
子どもの総合診療		
成育医療		
小児救急医療		
地域医療と社会資源の活用		

患者・家族との信頼関係		
プライマリ・ケアと育児支援		
健康支援と予防医療		
アドヴォカシー		
高次医療と病態研究		
国際的視野		
医の倫理		
省察と研鑽		
教育への貢献		
協働医療		
医療安全		
医療経済		
総合評価		
自由記載欄		

- 3) サイトビジット：専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー、7-6参照）に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。また、専門医機構・日本小児科学会全体としてプログラムの改善に対して責任をもって取り組みます。

7-4 専攻医の採用と修了

[整備基準：27, 52, 53]

- 1) 受け入れ専攻医数：本プログラムでの毎年の専攻医募集人数は、専攻医が3年間の十分な専門研修を行えるように配慮されています。本プログラムの指導医総数は（46）名（基幹施設16名、連携施設5名、関連施設26名）であるが、整備基準で定めた過去3年間の小児科専門医の育成実績（専門医試験合格者数の平均+5名程度以内）から（ 8 ）名を受け入れ人数とします。

受け入れ人数	（ 8 ）名
--------	--------

- 2) 採用：北九州市立八幡病院小児科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラムを毎年6月に公表し、6-7月に説明会を実施し応募者を募集します。研修プログラムへの応募者は、7月30日までに、プログラム統括責任者宛に所定の「応募申請書」および履歴書等定

められた書類を提出してください。申請書は、北九州市立八幡病院小児科研修プログラムの website(<http://www.yahatahp.jp/yahatahp/index.html>)よりダウンロードするか、電話あるいは e-mail で問い合わせてください (Tel: 093(662)6565 / Mail:byou-yahata-jimukyoku@city.kitakyushu.lg.jp)。原則として8月中に書類選考および面接を行い、専門研修プログラム管理委員会は審査のうえ採否を決定します。採否は文書で本人に通知します。採用時期は全領域で統一に従います。

- 3) 研修開始届け: 研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、北九州市立八幡病院小児科専門研修プログラム管理委員会 (byou-yahata-jimukyoku@city.kitakyushu.lg.jp) に提出してください。 専攻医氏名報告書: 医籍登録番号・初期研修修了証・専攻医の研修開始年度、専攻医履歴書 (様式 15-3 号)
- 4) 修了 (6 修了判定参照): 毎年1回、研修管理委員会で各専攻医の研修の進捗状況、能力の修得状況を評価し、専門研修3年修了時に、小児科専門医の到達目標にしたがって達成度の総括的評価を行い、修了判定を行います。修了判定は、専門研修プログラム管理委員会の評価に基づき、プログラム統括責任者が行います。「妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止」、「疾病での休止」、「短時間雇用形態での研修」、「専門研修プログラムを移動する場合」、「その他一時的にプログラムを中断する場合」に相当する場合は、その都度諸事情および研修期間等を考慮して判定します。

7-5 小児科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 [整備基準: 33]

- 1) 研修の休止・中断期間を除いて3年以上の専門研修を行わなければなりません。勤務形態は問いませんが、専門医研修であることを統括責任者が認めることが絶対条件です (大学院や留学などで常勤医としての勤務形態がない期間は専門研修期間としてはカウントされません)
- 2) 出産育児による研修の休止に関しては、研修休止が6か月までであれば、休止期間以外での規定の症例経験がなされ、診療能力が目標に到達しているとプログラム管理委員会が判断すれば、3年間での専攻医研修修了を認めます。
- 3) 病気療養による研修休止の場合は、研修休止が3か月までであれば、休止期間以外で規定の症例経験がなされ、診療能力が目標に到達しているとプログラム管理委員会が判断すれば、3年間での専攻医研修修了を認めます。
- 4) 諸事情により専門医研修プログラムを中断し、プログラムを移動せざるをえない場合には、日本専門医機構内に組織されている小児科領域研修委員会へ報告、相談し、承認された場合には、プログラム統括責任者同士で話し合いを行い、専攻医のプログラム移動を行います。

7-6 研修に対するサイトビジット

[整備基準：51]

研修プログラムに対する外部からの監査・調査に対して、基幹施設および連携施設の責任者は真摯に対応します。日本専門医機構からのサイトビジットにあたっては、求められた研修関連の資料等を提出し、また、専攻医、指導医、施設関係者へのインタビューに応じ、サイトビジットによりプログラムの改善指導を受けた場合には、専門研修プログラム管理委員会が必要な改善を行います。

8. 専門研修実績記録システム、マニュアル等 [整備基準：41-48]

専門研修実績記録システム（様式）、研修マニュアル、指導医マニュアルは別途定めます。

研修マニュアル目次

- 序文（研修医・指導医に向けて）
- ようこそ小児科へ
- 小児科専門医概要
- 研修開始登録（プログラムへの登録）
- 小児科医の到達目標の活用（小児科医の到達目標 改定第6版）
- 研修手帳の活用と研修中の評価（研修手帳 改定第3版）
- 小児科医のための医療教育の基本について
- 小児科専門医試験告示、出願関係書類一式、症例要約の提出について
第11回（2017年）以降の専門医試験について
- 専門医 新制度について
- 参考資料
小児科専門医制度に関する規則、施行細則
専門医にゆーす No. 8, No. 13
- 当院における研修プログラムの概要（モデルプログラム）

9. 専門研修指導医 [整備基準：36]

指導医は、臨床経験10年以上（小児科専門医として5年以上）の経験豊富な小児科専門医で、適切な教育・指導法を習得するために、日本小児科学会が主催する指導医講習会もしくはオンラインセミナーで研修を受け、日本小児科学会から指導医としての認定を受けています。

10. Subspecialty 領域との連続性 [整備基準：32]

現在、小児科に特化した Subspecialty 領域としては、小児神経専門医（日本小児神経学会）、小児循環器専門医（日本小児循環器病学会）、小児血液・がん専門医（日本小児血液がん学会）、新生児専門医（日本周産期新生児医学会）の4領域があります。

本プログラムでは、基本領域の専門医資格取得から、Subspecialty 領域の専門研修へと連続的な研修が可能となるように配慮します。Subspecialty 領域の専門医資格取得の希望がある場合、3年間の専門研修プログラムの変更はできませんが、可能な範囲で専攻医が希望する subspecialty 領域の疾患を経験できるよう、当該 subspecialty 領域の指導医と相談しながら研修計画を立案します。ただし、基本領域専門研修中に経験した疾患は、Subspecialty 領域の専門医資格申請に使用できない場合があります。

1 1.当施設での実際の研修内容と流れ

1) 当施設（北九州市立八幡病院）での研修内容

* 準夜・深夜診療勤務（連日小児科医3-5名での準夜・深夜体制）

スタッフおよび準スタッフ（5-6年以上在籍している）との3-5人体制での準夜・深夜勤務であり（月6-7回）、当直時の入院症例は原則担当する（一晚10名以上の場合には翌日同じグループで分け合う）。主な業務は病棟入院児の対応、救急初期部門見学、二次三次部門の手伝いである。かなりの症例幅を研修経験できる貴重な業務である。3-5人体制のために、かなり精神的には安心して当直業務が行えるし、困ったときには一緒に当直している上級医・指導医に指示を仰げる利便性があり、密着しての指導を受けることができ、能率的でもある。

* 日勤診療業務

- ・週に1回は必ずスタッフ外来の陪席に就き、医療面接と各種疾病の診断～治療～管理方針を研修する
- ・週に2回は病棟・外来の処置係を行い、採血、点滴確保、ルンバール等の手技の研修、検査時の鎮静法等の研修を行う。
- ・担当入院児の診療により傷病の種類・治癒過程・治療方法・医療面接による育児困難等の養育環境の多様性を研修する
- ・外勤として、近隣市町村の集団乳幼児健診に出向し、健常児の発達の評価、発達・発育遅延児の診断等の研修を行う

* 日常教育業務

- ・毎朝7時半～当直報告カンファランスで、前夜入院児のプレゼンテーションの方法から傷病の診断治療方針を研修する
- ・週1回の抄読会で最低でも3週に1度は当番をして、救急疾患や救急処置・対応の英文論文を訳して、スタッフに紹介する
- ・週1回の症例検討会においても最低月1度は症例プレゼンテーションを行い、その方法論と傷病の診断・治療方針の研修を行う
- ・週1回の外科カンファランスにて、外科領域の疾患の病態治療概念の理解と周術期管理の研修を行う

2) 北九州市立総合療育センター（障害児医療・福祉の研修）

* 病棟業務

- ・外来診療日ではない日は、病棟での母子入院の障害児ケアを研修、さらには長期入院児の慢性症状のケア研修を行う
- ・外来日には発達障害児の診断、医療福祉的対応の基本等を研修する

* 当直業務

- ・当直時は特に長期入院児（成人）における急変対応の研修を行う
- 3) 北九州市立医療センター（NICU 研修）
- ・NICUにおいて、危急新生児の診断治療および家族対応の研修を行う
 - ・月に5-6回のNICU当直業務を経験して未熟児新生児医療のノウハウを経験して研修効果を高めている。
 - ・分娩立会と正常出産児の対応による正常児の生理等の研修を行う
- 4) 遠賀中間医師会病院小児科（地域総合小児科・小児保健研修）
- ・乳児健診（集団）による正常児の観察、保護者不安への対応、地域開業医との総合診療における総合小児医療を身につける。
 - ・診療応援等を含めたチーム医療・連携の実態を研修する。
- 5) 新水巻病院小児科（NICU 研修・発達障害研修・重度心身障害児医療）
- ・NICU出身児のハンディに対する医療の状況を経験し、そのニーズを理解する。
 - ・在宅医療の重要性とそのスキルの研修、さらには急変児の救急医療を経験研修する。
- 6) 手稲溪仁会病院小児科・松戸市立病院小児総合医療センター・神戸中央市民病院小児科（病院背小児科学・臨床研究の推進）
- ・上記の連携病院とは病院小児科の修練を目的として、4病院間の臨床研究の推進や短期研修による人的交流を整備し専攻医研修の充実を図る。

1 2.指導者研修計画と実施記録

○研修計画の柱

- 1) 小児科学会指導医講習会への参加（毎年最低1人は参加することを目標にしている）
- 2) 地元の大学が行う指導医講習会への参加
- 3) 指導医評価票、及び指導医-体制評価票に基づく、形成的評価の実践
- 4) 小児専攻医研修管理委員会での評価（3）を元）の実践

○講習会参加記録（施設医局全体で記録を残していく）

JPS 指導医講習会）

- ① 本講義受講
- ② 電子媒体受講

○指導医評価票・指導医-体制評価票に基づく自己評価記録

○小児専攻医研修管理委員会での評価

以上